

5 洪水・土砂災害について

洪水が心配される台風や集中豪雨のとき、どんなことに注意して、どんな準備をすればよいでしょうか？
みなさんの家庭で洪水や土砂災害の対策ポイントを確認しましょう。

雨の強さと降り方（1時間降雨量）

やや強い雨

10～20mm未満

話し声が聞こえにくくなります。
長雨になりそうなら注意が必要です。



強い雨

20～30mm未満

どしゃ降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。小さな川なら水があふれ出したり、がけ崩れの心配もあります。



激しい雨

30～50mm未満

山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなります。道路の規制も行われます。避難の準備をしましょう。



非常に激しい雨

50～80mm未満

滝のように雨が降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。家の中で寝ている人の半分くらいが気づくほどの激しい雨です。



猛烈な雨

80mm以上

息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大雨による災害が起こるおそれがあります。厳重な注意が必要です。

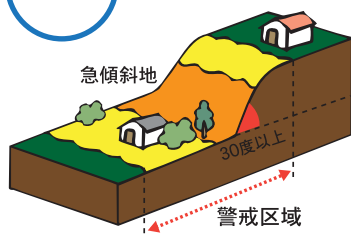


土砂災害警戒区域の地形条件

洪水や大雨、地震によっておこる土砂災害に注意しましょう。土砂災害から身を守るためには、日頃の備えと早めの避難が必要です。

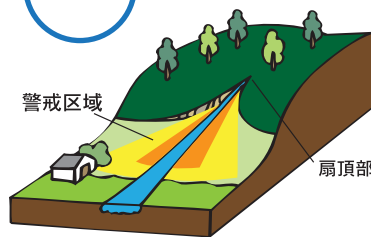
土砂災害には、がけ崩れ、土石流、地すべりの3種類があります。

がけ崩れ



「がけ崩れ」とは、地中にしみこんだ雨水により、急な斜面が突然滑り落ちる現象です。また地震によっておこることもあります。

土石流



「土石流」とは、谷や山の斜面から崩れた土や石などが、大雨や長雨による水と一緒に、一気に流れ出てくる現象です。

地すべり



「地すべり」とは、粘土のようなすべりやすい地層に雨水などがしみこみ、その影響で地下水水位が上昇し、地面が滑り出す現象です。

土砂災害から身を守る

全国で年間平均900件以上の土砂災害が発生しています。

土砂災害のほとんどは、雨にともなって突然発生するのが特徴です。梅雨時から台風シーズンにかけて一年のうちでも降水量の多い時にもっとも発生します。平成30年7月豪雨では小郡市内でも6カ所のがけ崩れが発生しました。裏面の土砂災害警戒区域を確認し、「日頃の備え」を万全にし、いざとなったら「早めの避難」を心がけましょう。

雨に注意していますか？

土砂災害の多くは雨から起こります。大雨や長雨で危険と思ったら早めに避難しましょう。1時間に20ミリ以上または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。



逃げ方を知っていますか？

土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向とは、直角に逃げましょう。

